

滋賀県の地震

令和 8 年(2026 年)7 月

目 次

1 滋賀県の地震活動

(1)震央分布図	1
(2)概況	1
(3)断面図	2
(4)滋賀県で震度1以上を観測した地震の表	3
(5)滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図	4

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動

(1)震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図	7
(2)概況	7

3 地震一口メモ

「令和8年熊本地震」について	8
----------------	---

「滋賀県の地震」は彦根地方気象台における地震業務の一環として、県下の皆様に県内の地震活動状況をお知らせするとともに、防災知識の普及に努め、皆様のお役に立てることを目的とし、毎月刊行しています。

「滋賀県の地震」は上記目次で構成し、適宜地震活動把握のための解説資料や用語解説等を掲載します。

本資料に関する問い合わせは「彦根地方気象台（電話 0749-22-6142）」にお願いします。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを使用しています。

また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

滋賀県内の震度情報発表地点は彦根地方気象台ホームページに掲載しています。

<https://www.data.jma.go.jp/hikone/seismo/seismo.html>

本資料の震源要素及び震度データは、後日再調査の上修正されることがあります。

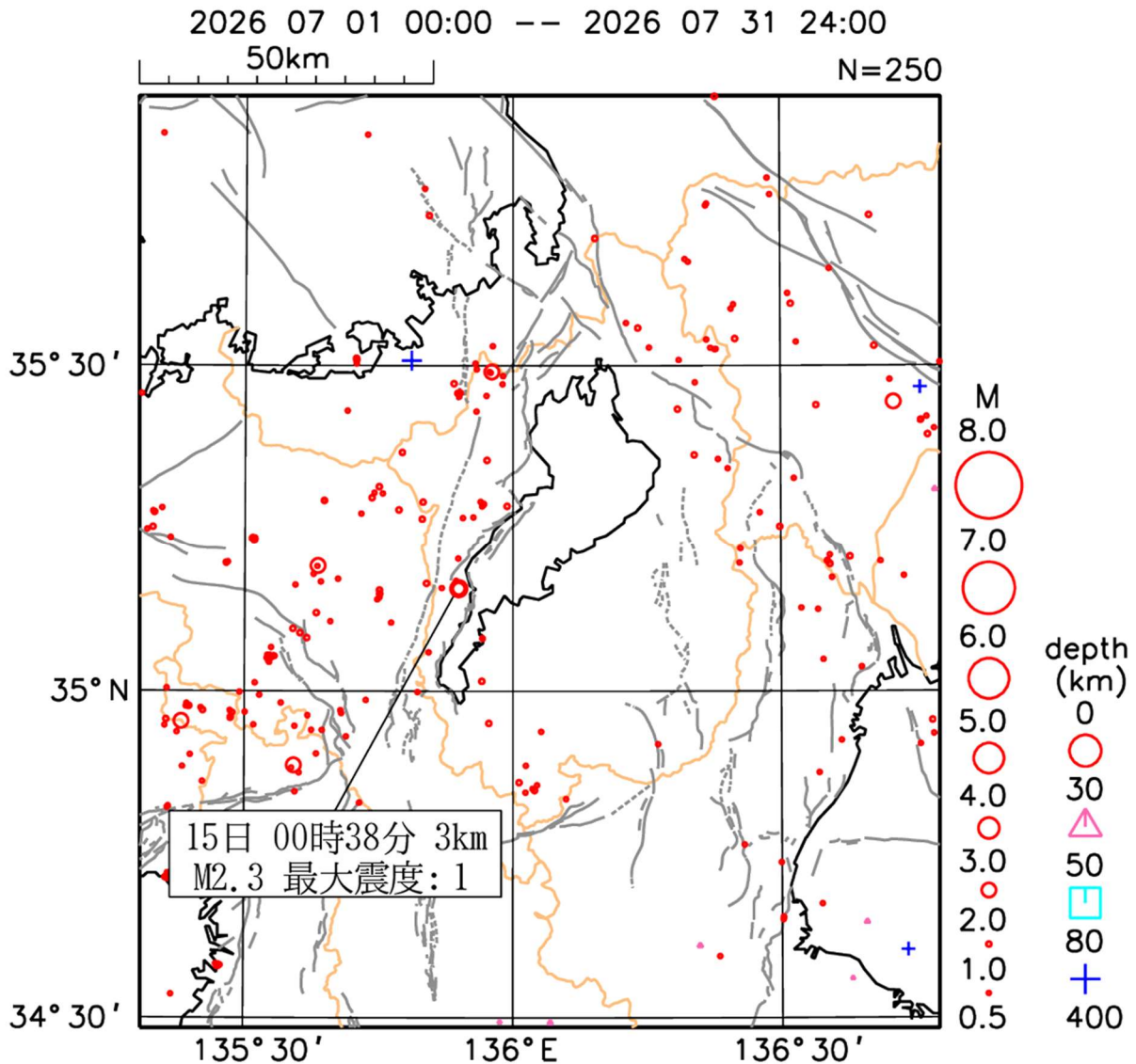
全国の地震火山活動概況、震源要素、震度データは気象庁ホームページに掲載しています。以下のアドレス「地震・津波・火山」からお知りになりたい項目をクリックしてください。

<https://www.jma.go.jp/jma/menu/menureport.html>

彦根地方気象台

1 滋賀県の地震活動(令和 8 年 7 月)

(1) 震央分布図



震央分布図は、地図上に地震の震央を表示したもので、地震の活動を示すものです。

シンボルマークの位置により「緯度、経度」、大きさにより「地震の規模(マグニチュード)」、形状により「震源の深さ(km)」を表現しています。マグニチュード(M)とシンボルマークの大小、震源の深さ(depth)とシンボルマークの形状の対応は震央分布図の右側の凡例のとおりです。

図中の灰色の折線は、地震調査研究推進本部による主要な断層帯の概略位置です。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

滋賀県で震度1以上を観測した地震には、日時・震源の深さ・マグニチュード・最大震度を付記しています(最大震度はその地震で観測された最も大きな震度で、滋賀県内の最大震度とは限りません)。

震央地名は経緯度の格子で区切っているため、県境付近では行政区域の境界と正確に一致しないことがあります。

(2) 概況

7月に震央分布図の範囲内におけるM2.0以上の地震は9回(前月11回)でした。滋賀県内で震度1以上の揺れを観測した地震は3回でした(前月4回)。

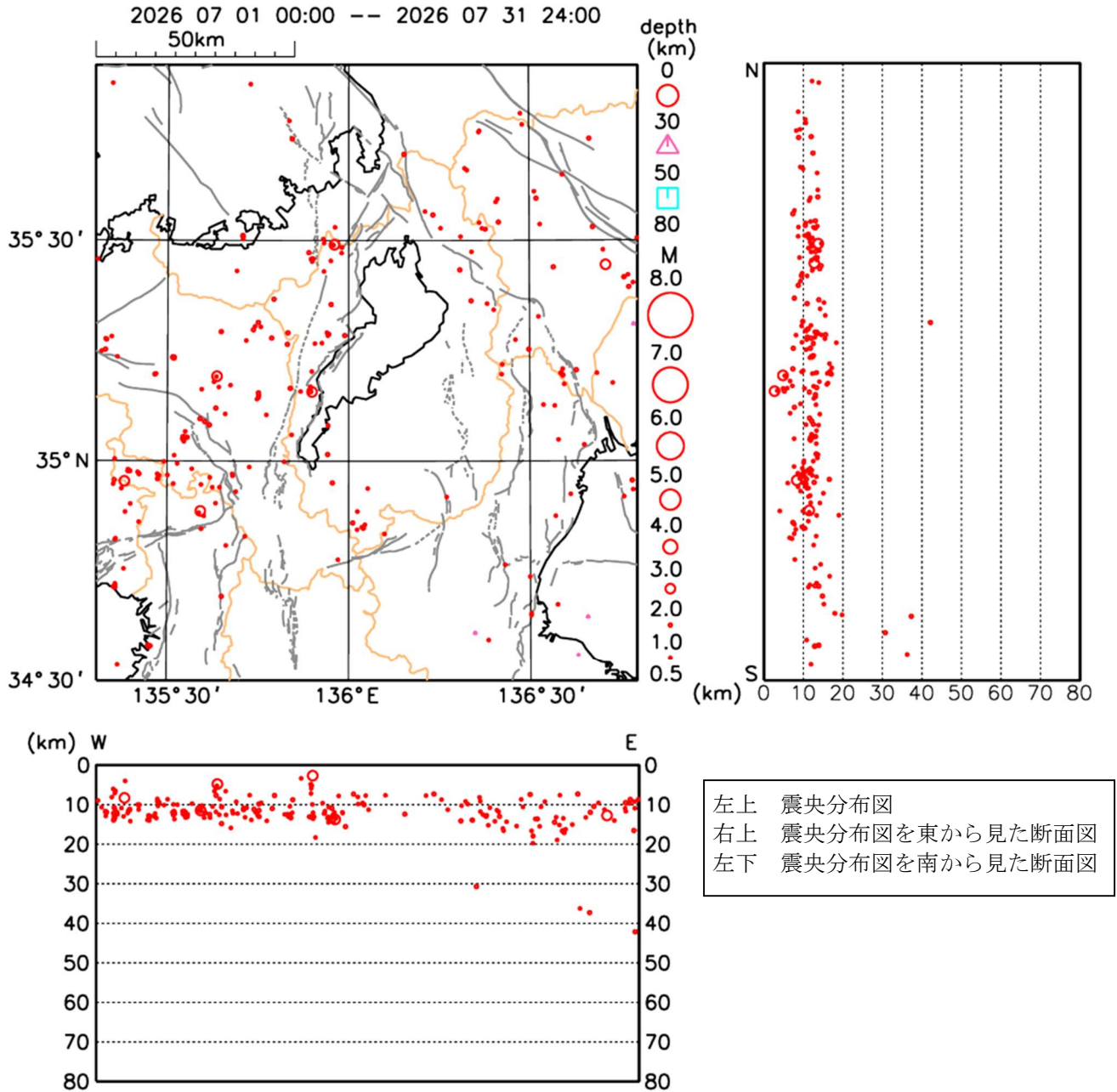
滋賀県内で震度1以上を観測した地震は、以下の通りです。

9日 21時58分 和歌山県南方沖(図の範囲外)の地震(M4.7): 近江八幡市、湖南市、甲賀市、東近江市で震度1

15日 00時38分 滋賀県南部の地震(M2.3): 大津市で震度1

28日 16時27分 熊本県熊本地方(図の範囲外)の地震(M7.1): 大津市、近江八幡市で震度1

(3) 断面図(深さ 80km までの地震)



【解説】

深さ数 km～約 20km に分布している地震は陸側のプレート内で発生した地震（地殻内地震）、深さ約 30km～約 60km に分布している地震は主として沈み込むフィリピン海プレート内の地震です。

(4) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の表

発震日時 各地の震度（滋賀県内のみ掲載）	震央地名	緯度	経度	深さ	マグニチュード
-------------------------	------	----	----	----	---------

2026年07月09日21時58分	和歌山県南方沖	33° 17.8' N	135° 02.9' E	25km	M4.7
-------------------	---------	-------------	--------------	------	------

----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1 : **近江八幡市桜宮町**, 湖南市中央森北公園*, 甲賀市甲賀町大久保*, 甲賀市土山町*, 東近江市上二俣町*, 東近江市市子川原町*

2026年07月15日00時38分	滋賀県南部	35° 09.4' N	135° 53.9' E	3km	M2.3
-------------------	-------	-------------	--------------	-----	------

----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1 : **大津市真野***

2026年07月28日16時27分	熊本県熊本地方	32° 37.5' N	130° 40.7' E	16km	M7.1
-------------------	---------	-------------	--------------	------	------

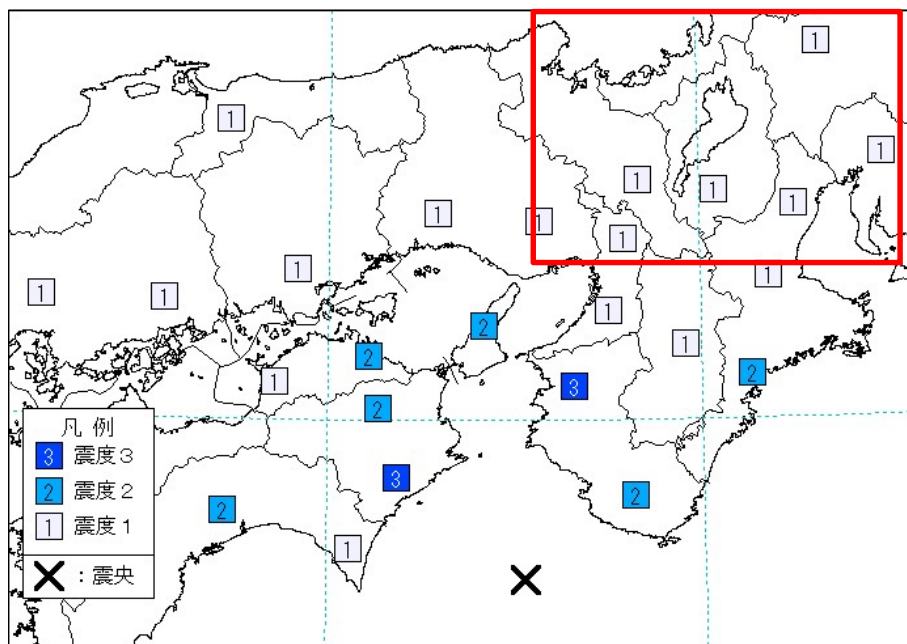
----- 地点震度 -----

滋賀県 震度 1 : **大津市南小松**, **近江八幡市桜宮町**, 近江八幡市出町*

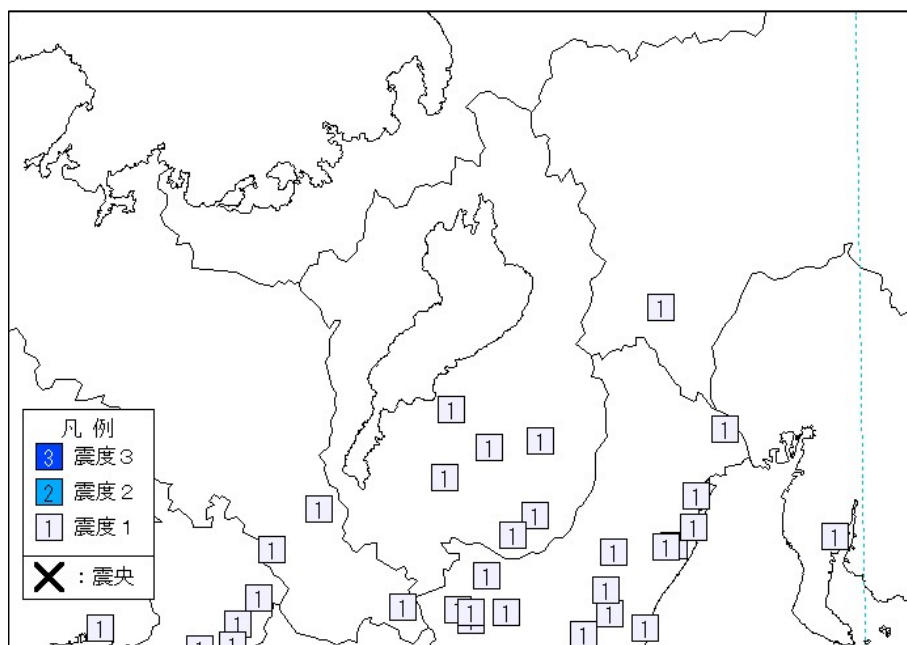
※ **太字**の地点は気象庁の震度観測点、名称の末尾に*がついている地点は、地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

(5) 滋賀県で震度1以上を観測した地震の震度分布図

2026年7月9日21時58分 和歌山県南方沖 (M4.7)



各地域の震度



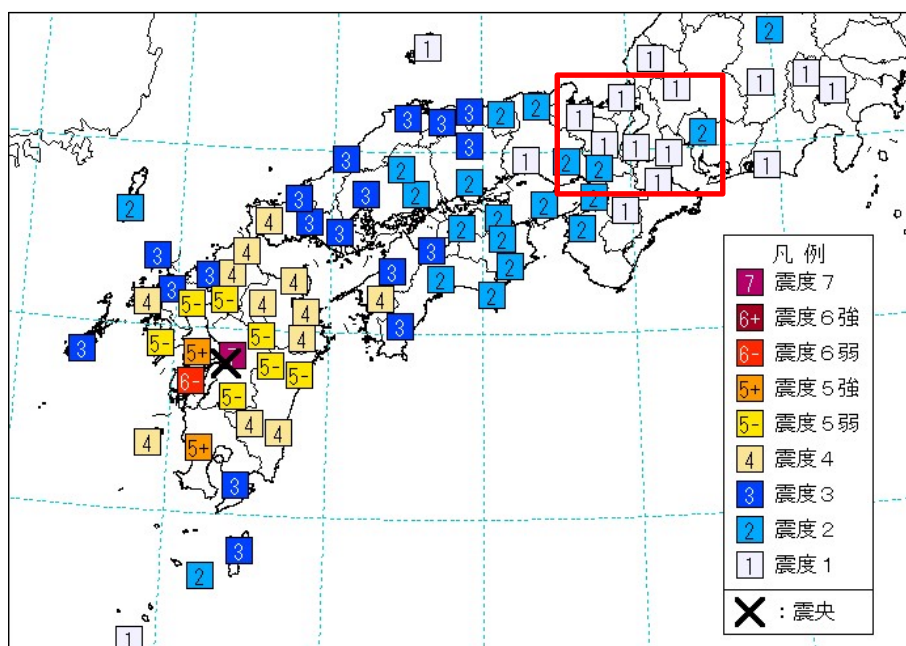
各観測点の震度（各地域の震度の赤矩形領域内）

2026年7月15日00時38分 滋賀県南部 (M2.3)

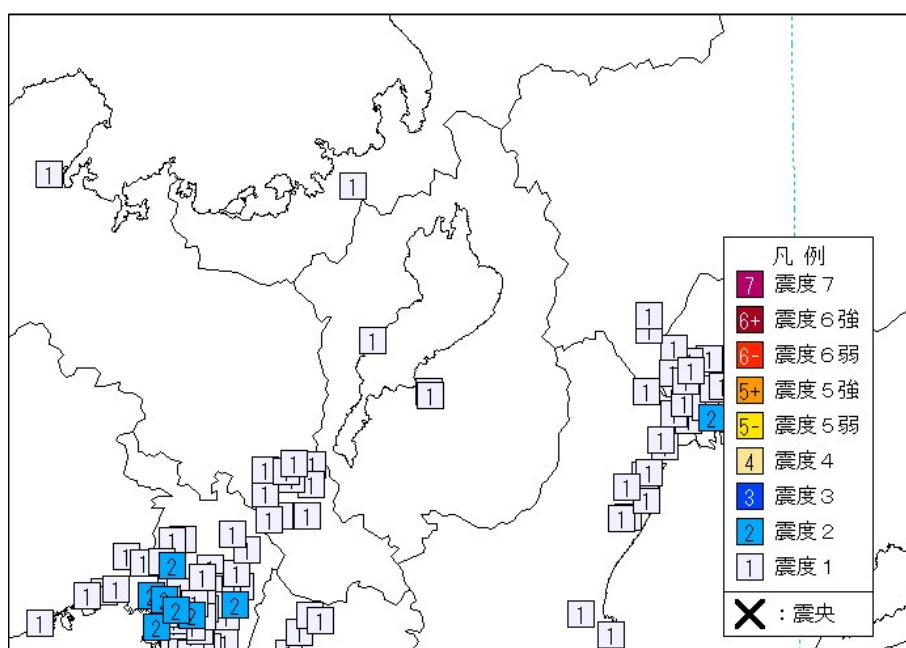


各観測点の震度

2026年7月28日16時27分 熊本県熊本地方 (M7.1)



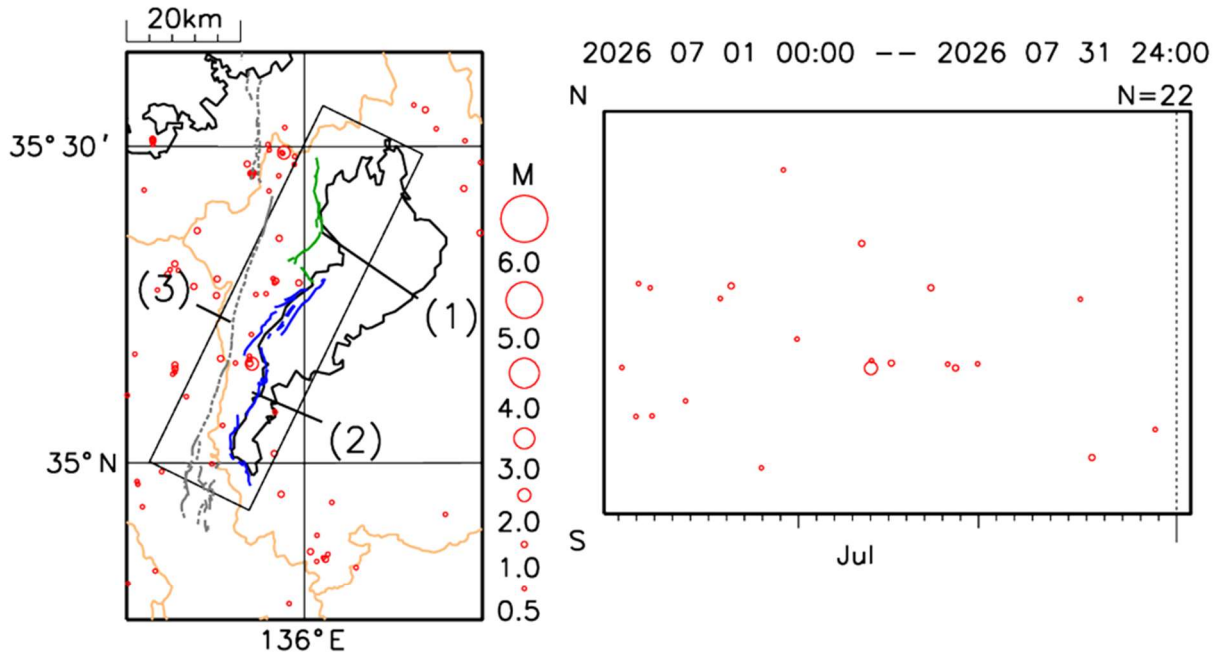
各地域の震度



各観測点の震度（各地域の震度の赤矩形領域内）

2 琵琶湖西岸断層帯周辺の地震活動(令和8年7月)

(1) 震央分布図・時空間分布図・地震活動経過図(深さ 30km までの地震)



(上) 震央分布図

深さ 30km 以浅の地震を表示。断層帯に沿った矩形領域内の地震の活動経過を右に表示。

図中の太線は、断層帯の概略位置。線種は活断層の存在の確実度(実線部>破線部)を表しています。

- (1) 琵琶湖西岸断層帯北部
- (2) 琵琶湖西岸断層帯南部
- (3) 三方・花折断層帯

(右上) 時空間分布図

震央分布図の矩形領域内の地震を南北の軸(縦軸)に投影し、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

(右下) 地震活動経過図(規模別)

震央分布図の矩形領域内の地震について、縦軸にマグニチュード、横軸に日時をとり、それぞれの地震を表示した図。

琵琶湖西岸断層帯について

琵琶湖西岸断層帯は、滋賀県高島市(旧マキノ町)から大津市国分付近に至る断層帯です。全体として長さは約 59km で、北北東-南南西方向に延びており、断層の西側が東側に対して相対的に隆起する逆断層です。

琵琶湖西岸断層帯は、断層帯北部と南部の2つの区間に分かれて活動すると推定されますが、全体が1つの区間として活動する可能性もあります。

断層帯北部では M7.1 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率は 1~3% と推定されます。

断層帯南部では M7.5 程度の地震が発生すると推定され、今後 30 年以内にそのような地震が発生する確率はほぼ 0% と推定されます。

(地震調査研究推進本部の長期評価(2009)による。ただし、地震発生確率の算定基準日は 2026 年 1 月 1 日。)

(2) 概況

7 月に震央分布図中の矩形領域内で観測された M2.0 以上の地震は 1 回(前月 0 回)で、震度 1 以上の揺れを観測した地震は 1 回でした。

3 地震一口メモ

「令和 8 年熊本地震」※¹について

2026 年（令和 8 年）7 月 28 日 16 時 27 分に熊本県熊本地方の深さ 16km でマグニチュード 7.1（以下 M7.1 と表す）の地震が発生し、熊本県宇城市（うきし）及び 氷川町（ひかわちよう）で震度 7 を観測したほか（図 1 参照）、中部地方から九州地方にかけて震度 6 強～1 を観測しました。滋賀県では大津市、近江八幡市で震度 1 を観測しました。また、熊本県熊本で長周期地震動階級 4 を観測しました。

7 月 28 日 16 時 27 分に発生した M7.1 の地震以降、最大震度 5 弱の地震が 5 回発生しています（2026 年 8 月 2 日 15 時時点）（表 1）。



図 1 7 月 28 日 16 時 27 分に発生した、M7.1 の地震の震度分布図（地域震度）

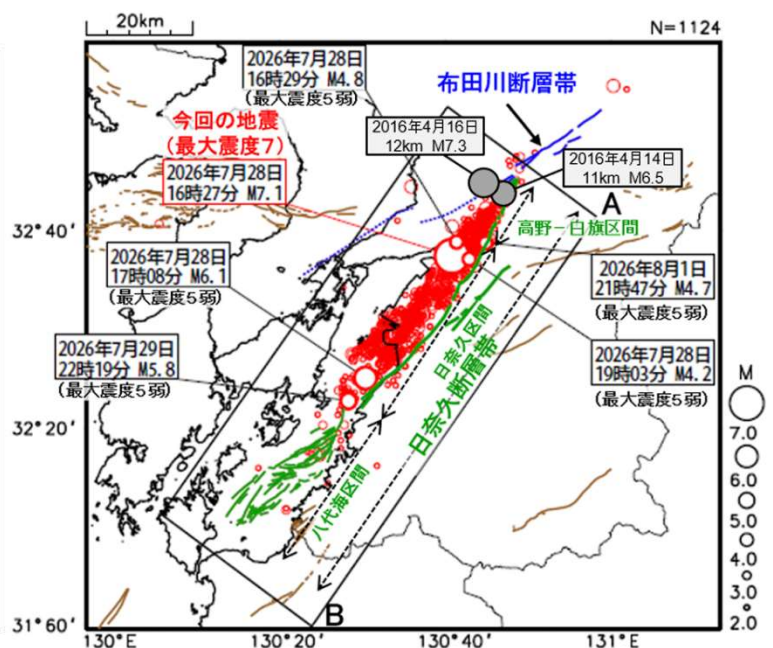


図 2 震央分布図（2026 年 7 月 28 日 16 時～8 月 2 日 08 時、深さ 0～20km、M2.0 以上）

発生時刻	震央地名	マグニチュード	最大震度
2026年07月28日16時27分	熊本県熊本地方	7.1	7
2026年07月28日16時29分	熊本県熊本地方	4.8	5 弱
2026年07月28日17時08分	熊本県天草・芦北地方	6.1	5 弱
2026年07月28日19時03分	熊本県熊本地方	4.2	5 弱
2026年07月29日22時19分	熊本県天草・芦北地方	5.8	5 弱
2026年08月01日21時47分	熊本県熊本地方	4.7	5 弱

表 1 最大震度 5 弱以上を観測した地震の発生状況（2026 年 8 月 2 日 15 時時点）

7月29日に公表されました、政府の地震調査研究推進本部 地震調査委員会の評価（一部抜粋）によると、7月28日16時27分にM7.1の地震が発生した後も活発な地震活動が継続しており、北東－南西に延びる50 km程度の範囲に広がっています（図2参照）。今回の地震活動は、日奈久断層帯の3つの区間（高野－白旗区間、日奈久区間、八代海区間）のうち、主に高野－白旗区間及び日奈久区間に沿って分布していて、M7.1の震源断層は、日奈久断層帯の日奈久区間の北東部及び高野－白旗区間の一部に及んでいると考えられます。

地震調査委員会は、日奈久断層帯の高野－白旗区間及び日奈久区間について、活動時にそれぞれM6.8程度、M7.5程度の地震が発生する可能性があり、30年以内の地震発生確率はそれぞれXランク（不明）、S*ランク（高い）※²と評価していました。また、日奈久断層帯を含む九州南部の区域では、M6.8以上の地震の発生確率は7-18%と評価していました。この値は一見低いようにも思えますが、他の災害事象の発生する確率と比べてみても決して低い値ではありません。滋賀県周辺にも活断層があります。地震調査委員会の主要活断層帯の長期評価を確認しておきましょう。

滋賀県は、滋賀県域で甚大な被害が想定される内陸活断層による地震として、5つの活断層（帯）を選定して被害想定を行っています。被害想定を確認しておき、事前の備えを行いましょう。

※1：「令和8年熊本地震」（気象庁が定めた名称）は、令和8年7月28日に熊本県熊本地方で発生したM7.1の地震及びそれ以降に発生した一連の地震活動を指す。

※2：活断層における今後30年以内の地震発生確率が3%以上を「Sランク」、0.1～3%未満を「Aランク」、0.1%未満を「Zランク」、不明（過去の地震データが少ないため、確率の評価が困難）を「Xランク」と表記している。地震後経過率※³が0.7以上である活断層については、ランクに「*」を付記している。Zランクでも、活断層が存在すること自体、当該地域で大きな地震が発生する可能性を示す。

※3：最新活動（地震発生）時期から評価時点までの経過時間を、平均活動間隔で割った値。最新の地震発生時期から評価時点までの経過時間が、平均活動間隔に達すると1.0となる。

気象庁HP 令和8年熊本地震ポータルサイト

https://www.jma.go.jp/jma/menu/20260728_kumamoto_jishin.html

地震調査研究推進本部HP 令和8年熊本地震の評価(令和8年7月29日公表)

https://www.static.jishin.go.jp/resource/monthly/2026/20260728_kumamoto_1.pdf

地震調査研究推進本部HP 「地震発生確率」について解説します

https://www.jishin.go.jp/resource/column/column_24spr_p06/

地震調査研究推進本部HP 主要活断層帯の長期評価

https://www.jishin.go.jp/evaluation/long_term_evaluation/major_active_fault/

滋賀県HP 滋賀県防災情報マップ

<https://shiga-bousai.jp/dmap/top/index>